

# 平成30年度 学校評価報告書

学校名	三田市立上野台中学校
-----	------------

## 1 学校教育目標

「夢や志をもち、心豊かでたくましく生き抜く生徒の育成」  
 ～めざす学校像～《生徒一人一人の発達を支援し、安心して学べる環境づくり》  
 ◆成長を支える学校<学力の定着と向上、生徒の発達や学びの支援、特別支援教育の視点>  
 ◆健康・安全・安心の学校<基本的生活習慣の支援、適切な危機管理>  
 ◆あたたかい学校<迅速・組織的生徒指導、教育相談の充実、共感的生徒理解、あたたかい言動>  
 ◆開かれた学校<学校・家庭・地域の連携、学校園所連携、関係機関との連携>

## 2 今年度の学校重点目標

①学力向上へ向けた授業改善の工夫    ②家庭・地域との連携  
 ③学校園所連携の推進    ④不登校生徒への支援の充実  
 ～「学力・学習意欲の向上」「読み取る力の向上」「自尊感情の育成」「自分で気づき、感じて、考えて、行動する力」～

## 3 総合的な自己評価

生徒は概ね落ち着いた学校生活を送り、授業に真剣に取り組もうとしている。気持ちの良い挨拶や言葉遣いに気を付けて、人の気持ちをわかって行動しようとしている。  
 学校では、生徒にとって主体的、対話的で深い学びに繋がるように、年間を通して一人の大学教員に助言を受けながら、授業研究、職員研修や様々な取り組みを実施し、教職員の資質の向上、授業改善に繋がった。また、支援を必要とする生徒へより良い支援策を、関係機関や専門家の助言を受けながら取り組みを進めることができた。

## 4 総合的な学校関係者評価

生徒達が学校生活を楽しんでいる。オープンスクールや学校通信、学校 HP、行事での参観で生徒の実態がよくわかる。中学校が頑張り良くなっていることが出入りしていると分かるので、更に発信や広報に努めて貰いたい。家庭で自学自習できる力の向上やもっと知りたいことを探究するような、知識習得だけではない主体的、対話的で深い学びへ、更に授業力を向上させることが課題である。

## 5 評価結果

自己評価				学校関係者評価
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
学習指導	学校園所連携による学力向上への共通実践。授業改善の工夫、規律ある学習・生活習慣づくり。	生徒はどの授業にも真剣に取り組もうとしている。本年度校区小中学校全職員研修を実施。保幼小中連携で「みんなで育てよう」改訂、解説編作成。どの子ども大切に授業づくりに成果。	「みんなで育てよう」を共通実践。学習の習熟への更なる工夫や授業改善の工夫を進める。	引き続き学習意欲を刺激する工夫をし、自尊感情を育みながら学力向上に繋げる。弱者になりがちな生徒へ丁寧に対応している。個の成長を見届けた声かけが必要。
	主体的、対話的で深い学びに繋がる「分かる授業」への授業改善。家庭での学習習慣の定着と学力の向上。	校内で毎学期授業研究実施。「分かる授業」へ指導方法等研修。朝学習や放課後の学習相談等で学習習慣づくりに成果。自学自習の力の向上が課題。	教科指導の工夫と家庭との連携で、新入生の段階に家庭学習の習慣化を図る。	学力向上の取組を堅持。自学自習できる力の向上へ家庭でできる学び方の支援策を。農業も教育活動にどうだろうか。
生徒指導	教育相談の充実、生徒の共感的理解に基づいた生徒指導。不登校生徒や生徒の発達への支援の充実。	アンケートや教育相談等の充実。教職員への信頼等により、学校生活における生徒の安心感等に成果。専門的な支援策の助言等で個を活かした対応に成果。	生徒や保護者に不公平感を感じさせない教職員の指導体制。特別支援教育の更なる推進。	個に応じた指導・支援の工夫を図ろうとしている。教職員が個性を發揮しつつ生徒に向き合い指導することも大切。同じパターンでの指導にならないように。
	「いじめ防止基本方針」に基づいた迅速かつ組織的な対応。	学校生活アンケートや「自分と生活を見つめるアンケート」に基づく早期の相談体制に成果。	いじめを許さず、他者との関わり方を学べる指導の充実を図る。	発達に応じた支援が、弱い立場の生徒へも力となる。どの生徒も安心して生活できる学校に。
教職員の資質向上	新学習指導要領への移行、「特別の教科、道徳」の実施への研修実施。分かりやすい学習指導の工夫、授業改善。	道徳の職員研修実施により道徳の教科化へ準備。特別支援教育に基づく相談研修の実施と、生徒を支援する体制づくりに成果。	どの子ども分かる喜びを実感できる授業により学習意欲の向上を図る。	生徒は教員の授業の工夫を理解している。教職員も自信を持ち生徒に向き合う。
	人権意識・危機管理意識の向上と組織的対応。家庭・地域に信頼される学校づくり。	報告、連絡、相談の徹底による情報共有と迅速な対応に成果。掲示環境の工夫により、あたたかい環境づくりに成果。	生徒が気づき、考え、関わる力の向上を図り、家庭との信頼関係づくりを更に進める。	ダメなことをすると教職員がきちんと指導すると生徒保護者も評価。6月以降の安全点検や危機管理意識の継続を。
開かれた学校づくり	学校園所連携で安心して学べる学習環境づくり。	学校園所連携へ組織的連携や活動の活性化。校区小中全職員研修実施。「みんなで育てよう」見直し、解説編作成。小6生、中学校で合同英語授業体験。	進学・進級での連携の充実。「みんなで育てよう」の共通実践。	小・小の交流も活性化し、子ども同士の交流が中学校へ良い影響に繋がっている。
	学校・家庭・地域連携でより良い教育環境づくりと多様な教育力の活用。	学校通信を地域施設等で掲示、小6生・保護者への配付。『虹プロジェクト』で地域へ苗提供や生徒地域貢献活動と家庭・地域の学校支援活動の活性化。	学校と家庭・地域の双方向の奉仕・貢献活動の充実を図る。	中学校や生徒を観ることで実態がわかる。学校も家庭も過保護になりすぎず、生徒の自立と共生へ向けた取り組みを。